

D 発達障害と対応

発達障害とはどのような障害でしょうか。発達障害者支援法には「自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害その他これに類する脳機能の障害であってその症状が通常低年齢において発現するものとして政令で定めるもの」と定義されています。

これらの発達障害は、それぞれに症状が異なっていたり、似かよっていたりします。診断がついている場合や、グレーゾーンの場合もあります。集団生活に入ってはじめて指摘されることもあります。

① 共通の症状

● 社会性の障害

共生・共感に乏しいという特徴があげられます。他人の気持ちや状態を理解することが苦手で、うまくコミュニケーションをとることができません。

● コミュニケーションの手段の障害

言葉をじょうずに使ったり、身振りや表情で、人に自分の気持ちを伝えることが苦手で、同じように、相手の言葉や表情から相手の気持ちや状況を理解することが苦手で、あいまいな指示や抽象的な表現は理解しづらく、写真や絵・文字のほうが比較的、理解できます。

● こだわりと想像力の障害

物事にこだわりやすい特徴があります。また、同じ動作を何度も繰り返します（常同行動）。何かを行うとき、同じ順序・方法・状態にこだわり、それが変わると混乱してしまいがちです。言い換えると、物事を予測し

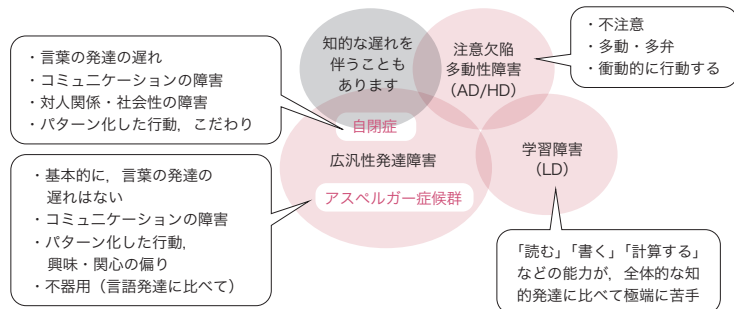


図 6-1 発達障害の特性

(厚生労働省ホームページ：「発達障害の理解のために」より作成)

て、気持ちや行動を切り替えたりすることが苦手で、そのため新たな計画を立てたり実行することがなかなかできません。

● 感覚の障害

水や高いところが好きです。かん高い赤ちゃんの泣き声や大きな音は苦手です。音や肌に触れるものに関して、極端に反応します。また味やにおいに敏感で、好きなものだけを食べ続けるなど、極端な偏食になりやすい傾向があります。

② 高機能自閉症

自閉症のなかで知的発達の遅れを伴わないものを高機能自閉症といいます。この病気は、言葉の発達の遅れのほか、まわりのできごとや人に対し



・視線が合いにくい



・ひとり遊びが多い



・言葉が少ない



・質問におうむ返しで答える



・回転するものに興味をもつ



・同じパターンで行動するのを好む

図 6-2 発達障害の行動の特徴（例）